



第59回全国自治体病院協議会精神科特別部会 総会・研修会を開催しました

2022年8月24～26日、当センター企画の第59回全国自治体病院協議会精神科特別部会総会・研修会が開催されました。コロナ第7波の真ただ中で、オンライン開催になりましたが、大変充実した内容でした。

研修会の総合テーマは「自治体病院精神科の未来を拓こう」、中テーマは「自治体病院精神科が担う専門医療と地域における多職種連携」、「人材育成・生き生きと働ける職場づくり」、「患者さん主体の精神科医療」の3つです。5つの講演、6つのシンポジウムに通底していたのは、まさにこの3つ目の中テーマで、自治体病院精神科、いえ、日本の全精神科病院の未来を拓くのは、患者さんが安心して支援を求められる、真に患者さん主体の精神科医療を実現することにしかないと確信しました。

特に、夏苺郁子氏の特別講演は感銘深いものでした。夏苺氏は、患者家族だった子ども時代、自らも患者となった青年期、患者・患者家族であることを隠して精神科医師として働いてきた長い時期の後、一つの出会いを機に、自身の体験や患者・家族の思いを医療者に伝える「語り部」となり、現在患者・家族と医療者をつなぐ役割を果たしています。その心の軌跡に耳を傾けながら、困難や苦悩の中でしか生まれてこない力、希望があるということをあらためて感じました。夏苺氏が伝えてくれた精神科医療に対する患者さんたちの失望と期待、双方を真摯に受けとめ、答えていかなければという思いを新たにしました研修会でした。



Contents

- 第59回全国自治体病院協議会精神科特別部会
総会・研修会を開催しました
- 第7波における受入体制と各部署の対応
(連携サポートセンター・2A病棟)
- 神奈川県依存症治療拠点機関事業
- 今後のイベント情報

第7波における受入体制と各部署の対応

神奈川県立精神医療センターは、「精神科コロナ重点医療機関」として、臨時医療施設※を運用する湘南鎌倉総合病院と連携してコロナ中等症の精神科患者さんの治療に当たっています。

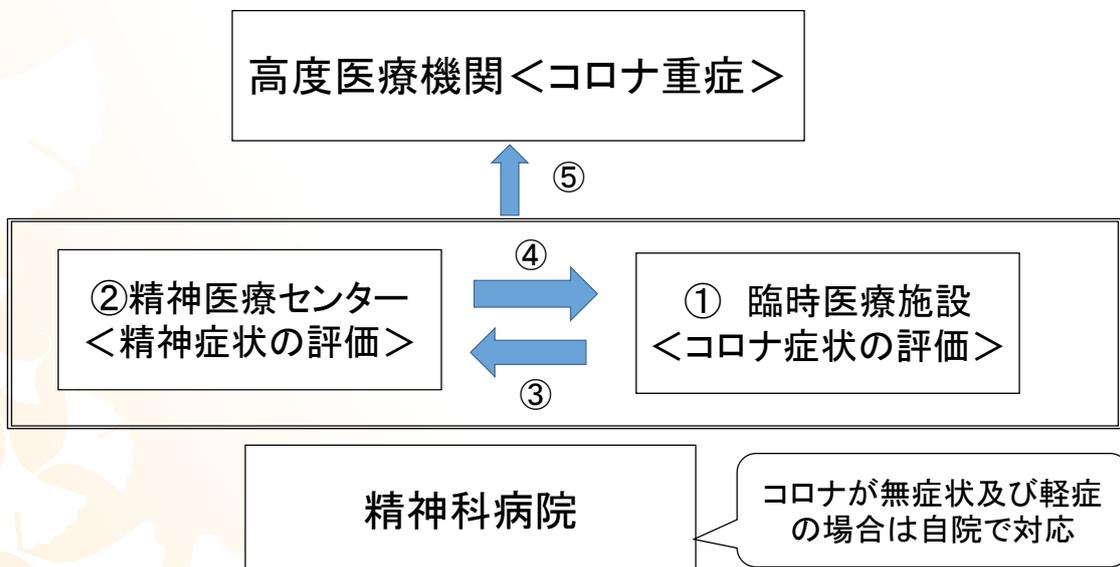
具体的な対応としては、

- 呼吸器症状増悪の可能性のある感染初期には、臨時医療施設に入院し、精神科治療は当センターの精神科医や看護師が協力しながら治療（①）
- 精神症状が重症で、当初より精神科治療が主となる患者さんは、当センターのコロナ病床（2A病棟に設置）に入院してもらい、精神科治療と並行して、湘南鎌倉総合病院の専門医に助言を受けながらコロナ治療を実施（②）
- 臨時医療施設で呼吸器症状が軽快した患者さんは、当センターに転院し、退院基準を満たすまで経過観察と精神科治療を実施（③）
- 患者の状態や医療機関の状況に応じて、臨時医療施設や高度医療機関に搬送するなど柔軟に連携・対応（④・⑤）

しかし、「第7波」では神奈川県でも過去最高の新規感染者数を更新するなど新型コロナウイルスが猛威を振るい、当センターの職員にも新型コロナウイルス感染者が発生するなど、今までとは違う状況でした。

次ページでは、「第7波」に対応したセクションから状況を報告します。

図 新型コロナウイルスに罹患した精神科患者さんの受入体制



※臨時医療施設は、2022年9月末をもって閉鎖しています。（ただし、湘南鎌倉総合病院内に新たにコロナ病床を確保しています。）

他施設・機関との調整について（連携サポートセンター）

「第7波」の対応・調整で苦慮したことは、市中に多数の感染者が発生したことにより、患者さんだけでなく職員の中にも感染者が発生したことです。これまで、どのように新型コロナ対応と通常医療を両立させるか思案してきましたが、そこに加えてマンパワー不足の中で病院・施設の機能維持を図らなければならなかったのが特徴です。マンパワー不足による患者さんの受入は、当事者である患者さんにとっても有益ではありません。そこで、可能な

〈臨時施設の外觀〉



限り機能維持を図ることができるよう、今の資源でできる実現可能な最善の感染対策を他病院にも伝達することに努めました。精神科コロナの体制がいつまで続くかは分かりませんが、これまでの経験を今後活かして医療連携体制、地域連携を進めていきます。

病院内での患者さん対応について（2A病棟）

「第7波」で入院してくる患者さんは、精神保健福祉法第23条に基づく警察からの通報による措置入院の方が多くいらっしゃいました。受入病棟は一般精神科の病棟であり、精神科救急の体制をとっていない中での受入のため、緊張感が高まりました。発熱などの症状が落ち着くと精神症状が優位になり、治療と安全のための行動制限が必要になることが少なくありませんでした。更に、看護職員にも新型コロナウイルス感染者が発生したため、マンパワーが大幅に減少し、職員同士励まし合いながら、なんとかコロナ患者さんの受入と通常医療を継続しました。自分自身が罹患した職員もあり、復帰後息苦しさが残る中でもPPE（個人用防護具）を着用して看護業務にあたり、「身体的にも精神的にもきつい状態だった」と後に語っています。

〈2A病棟のコロナ病床〉



「第7波」への対応は厳しい場面も多々ありましたが、この波を乗り切れたことが職員の自信になっています。

イベント報告（神奈川県依存症拠点機関事業）

神奈川県依存症治療拠点機関事業の一環として、次のイベントを行いました。

● 依存症セミナー（7月13、14日）

県内在住・在勤の支援者向けに依存症に対する理解と、現場での生きた対応方法を学ぶセミナーをZOOM形式で開催しました。

2日目には当センターが行っている依存症治療プログラムであるSARPP (Serigaya Alcohol Relapse Prevntion Program) やSCOP (Serigaya Collaboration for Open heart Project) についての紹介やプログラムに準じた内容のグループディスカッションなど講義以外の項目も組み込み、30名に対して修了証を発行しました。

掲示板（今後のイベント案内）

● 秋の健康まつり ～ココロとカラダを整えよう～

日 時：令和4年11月12日(土)
9:20～11:30

※新型コロナウイルスの感染状況によっては、開催を中止する場合があります。

会 場：神奈川県立精神医療センター 体育館
内 容：第1部 ミニ講座（各専門職による講座）
第2部 体験・測定
（マインドフルネス体験、AIによる歩行分析、コグニサイズ体験、各種測定など）

申込方法：事前申込不要・無料

神奈川県立精神医療センター シニア・支援者向け参加型イベント

秋の健康まつり

～ココロとカラダを整えよう～

参加費無料 事前申し込み不要 上座き不要

住み慣れた地域でより良い生活が送れるよう、ご自身のココロとカラダの状態を知り、専門家より栄養・運動・ココロのケア等を体験から学んでいただく企画しました。当センターサブプラザの相談コーナーの他、AI人工知能による歩行分析、タブレットを用いた認知機能検査（4次元6名）等、各種の測定コーナーも設置します。

日時 11月12日(土)
9:20～11:30
(受付 9:00～)

場所 神奈川県立精神医療センター体育館

第1部
座談 みんなで健康になる経路について

【ミニ講座】
管理栄養士 カラダ作りのお話となる栄養講話について
作業療法士 アタマを使いながら運動するコグニサイズもご紹介
公認心理師 瞑想を通してココロを整えるマインドフルネスもご紹介

第2部
-有償測定- AIによる歩行分析
-実演- コグニサイズ体験
【体験・測定】
-最新検査
マインドフルネス体験1
マインドフルネス体験2

事務局 本館2F 9
〒233-0006 神奈川県立精神医療センター デイケア棟 301
TEL 045-822-0241(代) FAX 045-822-0242
主催 神奈川県立精神医療センター 共催 横浜西戸が谷地区ケアプラザ
協力 横浜西戸が谷地区ケアプラザ 横浜西戸が谷地区ケアプラザ(株)ママン

● 令和5年3月10日(金) (予定) に依存症シンポジウムを開催します。

詳細については、後日HPにて掲載いたします。

センターニュースでは、みなさんのご意見を随時募集しています。取り上げてほしいテーマや、ご要望等がある方は、下記メールアドレスまでご連絡ください。

神奈川県立精神医療センター 総務課 soumu.1517@kanagawa-pho.jp